

- 8) 前川和昭(1983) 洲本市にてウスイロコノマチョウ
採集 Parnassius (29): 14
- 9) 平野雅親(1983) 兵庫県宝塚で採集した蝶 2種
月刊むし (154): 7
- 10) 法西定雄(1984) 西宮のウスイロコノマチョウ
てんとうむし (9)
- 11) 澁江賢一郎(1983) 83年島根県のウスイロコノマチョウ
すかしば (20): 44-45
- 12) 溝上誠司(1984) 佐賀県における迷蝶の記録
ちょう 7(2): 2-14
- 13) 広畑政巳(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2) てんとう
むし (8): 32-33
- Masami Hirohata 〒671-22 姫路市打越1343-259

ミスジチョウの幼虫と枯れ葉

近 藤 伸 一

1982年11月28日兵庫県宍粟郡一宮町阿舎利にてモミジの枯れ葉で越冬中のミスジチョウの幼虫を採集した。自宅にある高さ1.5mのモミジの枝に採集した枯れ葉のままで結びつけたが、2日後には別の枯れ葉の葉柄を糸で固定してこの枯れ葉を座として越冬した。

1983年3月中旬モミジの芽吹きにあわせて摂食を開始し、3月28日終令となった。幼虫が摂食しているのを観察することがないので、夜間に活動しているものと思っていた。

4月21日 18時30分にはいつものように頭部を下にして座に静止していたが、21時30分確認に行くと、やはり枯れ葉にはおらず、60cmほど離れた枝の葉をモリモリとたべていた。午前1時30分雨が降っていたので再確認に行くと元の枯れ葉にいつもの状態で静止していた。

4月23日 21時30分帰宅時に見ると、やはり枯れ葉から70cm離れた位置の葉を摂食していた。

4月26日 21時30分風が強く葉が大きくゆれていた。幼虫は枯れ葉に静止していた。

4月27日 21時30分いつものように摂食していた。

4月28日 19時雨が降っており幼虫は枯れ葉にいたが、雨もやんだので午前1時に見るとさかんに摂食していた。

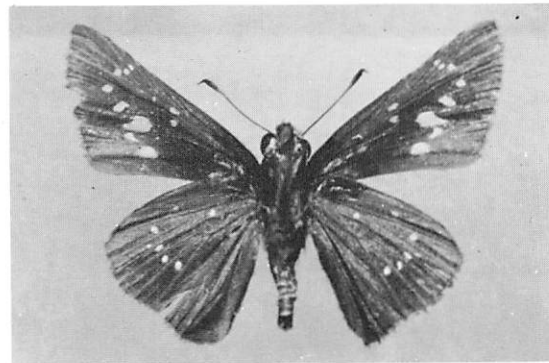
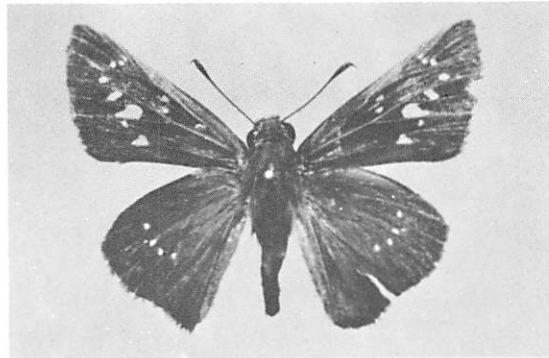
以上勤めによる観察時間の制約と短期間の観察ではあったが、ミスジチョウの幼虫にとって一枚の枯れ葉がもつ重要性を再認識した。昼間は保護色で外敵から身を守り、夜間でも気象条件が悪化すると糸で固定した安全な枯れ葉で時を過ごす。幼虫は枯れ葉の付近の葉を残して離れた場所で摂食し5月1日この枯葉で蛹化した。
Shinichi Kondo 〒674神戸市西区岩岡町岩岡619-57

トガネチャバネセセリ (Pelopidas agna) 雌の 斑紋異常型

佐々木 薫

筆者は1982年8月7日、八重山諸島に蝶の採集行をした際に採集した、セセリチョウの中に日本産セセリチョウ科にいない斑紋の個体が採れている事に気付き調べたところ自分では、タイワンチャバネセセリによく似ているが、はっきりしたことが判らず、九州大学教授の白水隆先生に同定をお願いした結果トガリチャバネセセリの♀と同定していただきました。

写真でみるように後翅表裏にはっきりと白紋の出た個体はこれまで採集例が少ないように思いますので報告をしておきます。



最後に白水隆教授に同定をお願いしたところ、懇切丁寧な内容のお返事を早速に頂いた。心よりお礼を申しあげます。又いつも蝶の写真を撮って頂く入江照夫氏にもお礼を申しあげたい。

Kaoru Sasaki

兵庫県相生市赤坂町1丁目121の1